

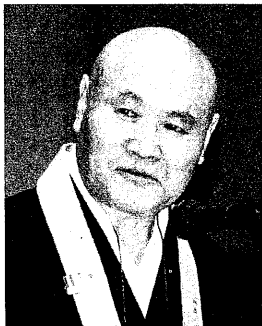
市仏連会報

発行所
 横浜市中区大平町96
 光明山西有寺内
 横浜市仏教連合会
 電話(045)661-0166

ご挨拶

横浜市仏教連合会
 会長 川上敬吾

お盆、そして秋彼岸の諸行事も無事つとめられたこと存じます。会員諸大徳におかれましては寺門興隆のため日々ご精進されておられることと拝します。



それにつけても今年のお盆、特に八月と秋彼岸の暑さは格別でした。棚経なども暑さで大へん苦勞されたことと思います。これもみな地球温暖化の現象のなせることと思えますが、最高気温が四十度を越すところが多く出たことでも今年の暑さは尋常ではなかったと思えます。上昇した海水温、海産物が大量死などのニュースも耳にし、又、テレビの放映などで北極の水がとけて崩れて海中に流れ出すさまや、ヒマラヤの水河がとけだして後退していく姿や、ツバルのように海抜の低い国が海面の上昇で住民が島を離れることを余儀なくされる姿を見るにつけ、一國が海面下に沈んで消えてしまうか

もしれないということに誠心ゆゆしきことだと思えます。

人類が豊かな生活を求めていくうえで、欠かせない経済発展のために物づくりをどんどんおし進めていった結果、工場から排出される汚染物質によって大気汚染が拡がり、産業廃棄物が次から次へと大量に出すことにより環境を悪化させた結果であり、これをくいとめることが今まさにとわれていることだと思えます。いわゆる先進国が豊になったその代償として地球環境を破壊してきたのははつきりしており、今それが地球にとつて大変なことになってきているのにやつと気付いて来たのだが、憂慮するのは発展途上国が、今、先進国の後を追って同じように豊かさを求めた結果、環境破壊をもたらしていることである。

振り返って国内ではどうかというところ、たしかに経済の発展はすさまじく生活も便利さと豊かさはかなりのものとはなったが、大都市周辺では田畑、森や林は次から次へとつぶされ開発されて、巨大団地やマンションが林立し豊かな緑は失なわれ自然は破壊され最悪の環境となつてしまつたが、今なお破壊が進んでいることには早急に歯止めをかけなければと思えます。

街にはずなあふれ排気ガスが充滿し、必要以上に無駄なエネルギーを消費し益々地球温暖化に手をかしているのが現状であり、自分たちだけのことしか考えない人間のエゴが温暖化を招いてしまったのではないかと思えます。昨今、共生という言葉をよく耳にするがまさに自然との共生が今こそ必要不可欠ではないのかと思う。今地球がどうなっているのか、何をしなければいけないのか考えようという気運がおこつて来ているのも事実です。

リサイクルや節電、安易な車生活の反省も必要でしょうし、資源の無駄づかいをせぬよう努め物を大切に、もつたいたいという心を持つことも必要と思えます。人間一人ひとりが地球環境を大切にするとこの自覚を持つ心、この心の教育を進めていくのが宗教者の役割ではないのかと思えます。現在も将来これから未来永劫地球環境を守るため、そして人間の安心、安全を保障するためにも意識の改革の教育が待たれているのではと思えます。

―涅槃会担当区予定―

- 平成20年第33回 南港南区仏
- 平成21年第34回 戸塚区仏教会
- 平成22年第35回 鶴見区仏教会
- 平成23年第36回 西区仏教会

―総会議長担当区―

- 平成20年第35回 都筑、緑青葉
- 平成21年第36回 戸塚、瀬谷
- 平成22年第37回 泉区、栄区
- 平成23年第38回 鶴見、神奈川区
- 平成24年第39回 西区、磯子区

市仏連役員名簿

- | | |
|---------|-------|
| 名譽会長 | 大道晃山 |
| 顧問 | 志村慎吾 |
| 顧問 | 滝川覚道 |
| 顧問 | 横山敏明 |
| 顧問 | 齋藤隆法 |
| 顧問 | 都築哲信 |
| 顧問 | 福永隆昭 |
| 副会長 | 川上敬吾 |
| 副会長 | 玄野孝善 |
| 副会長 | 山本信行 |
| 副会長 | 林田眞成 |
| 専務理事 | 橋下賢明 |
| 會計 | 秋山智謙 |
| 會計 | 備前恭忍 |
| 会報担当 | 関水俊道 |
| 時局対策委員長 | |
| 監事 | 佐藤功岳 |
| 監事 | 福田俊光 |
| 監事 | 佐伯隆義 |
| 理事 | 各区仏会長 |

区仏会長名簿

- | | |
|-------|-----------|
| 鶴見区 | 智廣寺 橋本正博 |
| 神奈川区 | 本覚寺 守長尚文 |
| 西区 | 萬徳寺 横山正彦 |
| 中区 | 大圓寺 佐藤功岳 |
| 南・港南区 | 興禅寺 市川智彬 |
| 保土・旭区 | 香象院 四之宮弘孝 |
| 磯子区 | 大聖院 鷲雄興勝 |
| 金沢区 | 金龍院 志村君崖 |
| 港北区 | 妙蓮寺 山本玄征 |
| 都筑区 | 長王寺 山本信行 |
| 緑・青葉区 | 萬藏寺 河本岡文 |
| 戸塚区 | 雲林寺 北見秀明 |
| 瀬谷区 | 長天寺 三田裕道 |
| 泉区 | 無量寺 小川豊彰 |
| 栄区 | 般若院 星野英秀 |

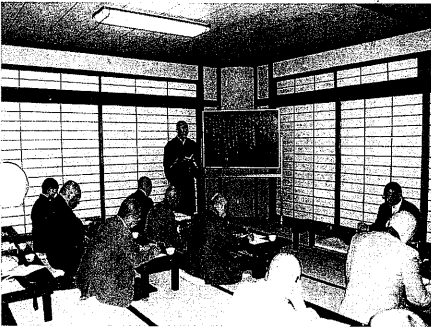
第三十四回總會開催

平成十九年五月十六日(水)、横浜市仏連總會が西有寺で開催された。午後二時すぎ、玄野孝善師当会副会長の開会の言葉に引き続き、川上敬吾師当会会長の挨拶をいただいた。議長選出に入り、南・港南区仏会長・市川智彬師が議長に坐り、役員が2/3以上の出席があり、總會が成立と宣し議案審議が進行した。

議案(一)、平成十八年度事業報告を林田眞成当会専務理事がした。議案(二)時局対策委員会よりの報告を佐藤功岳当会委員長がした。議案(三)平成十八年度決算報告を秋山智謙当会会計がした。議案(四)会計監査報告を丸地良信当会監事がした。議案(五)以上四議案を拍手で承認した。

議案(六)平成十九年事業計画案を林田眞成専務理事が読み上げて説明した。今年度の涅槃会は第三十三回で南・港南区仏教会が当番になる。平成二十年の二月に予定をしている。参加行事の(3)県仏教会活動に参加協力の項で、全日仏の第四十回仏教徒会議神奈川大会開催に当り、県仏より協力要請があった。区仏会長宛のポスター等配布があり、市仏連としても絶大な協力をしたいので、会員各位もご支援の程、宜しくお願いをする。時局対策委員長の佐藤師の発言。草の根運動でリーフレットは何度

も配り、四万部捌けた。ご要望があれば皆様の所へお届けします。通夜返しに挟んで交付下さい。『葬儀』編集長の碑文屋氏に当会の運動を高く評価いただいた。業者に対するリベートが無いので広まっていけないのかと思ったりしている。委員会では業者の指定化をモデルケースとして考えている。準備家とする案とか、農協の組合長を紹介して貰ってコネクションづくりを図る。来る十一月十九日の全日仏神奈川大会の第三分科会が「葬儀」問題を担当する。どうぞ大勢のご参加をお願いする。「正しい仏教葬儀をすすめる会」をNPO法人化にできるのか。分家への仏壇普及を市仏連で協力に推し進めて貰えないものか、など鋭意検討中である。元ドリムランド跡地が市営のメモリアルグリーン霊園



となり、依頼される事も多くなる。我々、寺院側は情報不足で戸惑っています。との旨聞があった。霊園の事務所から読経依頼があった。広げるのに上手に利用すべき、情報を確実する意味でも必要かと思う。架空話もあるのか。委託業者より市仏連へ霊園で読経依頼、つまり墓前で読経派遣僧、契約申請だったので断った。当会は縁をもつて檀信徒を増やすために市仏ネットを作った。

一端、各寺のお寺で法事をして納骨するのが筋だといったら、それは利用者様が求めているいそう。中田市長と個人的に話した。その市営となった経緯は公園より墓地の方が収入が増すのでドリムランドを買収した。「時局」と「市仏ネット」の二つの併用は無理である。市営墓地は言うなれば倉庫業で宗教と別個だ。現メンバーでは無責任だ。現実に事務所売っている極小の供花しか上げられない。練香、塔婆はもつてのほかなのだ。納骨芝生墓地は一つ入る穴口で深いカロートの中へテープ状態で縛って下ろし納骨し、六個骨壺が入られるスペースとなっている。市仏連でドリムランド跡地霊園対応の「窓口」はつくりにくい。必要があれば市の立場の人に来て貰い話を聞くということが一応の結論となった。

平成18年度 時局対策委員会報告書

自 平成18年4月1日 至 平成19年3月31日
時局対策委員長 佐藤 功岳

- * 事業
 - ・ 委員会 6回
 - ・ 業者向け 葬儀施行指示書の策定・発送(業者・会員)
 - ・ 業者からの抗議文を全会員に送付

* 収支		
収入		
前年度繰越金	831,854	(協賛金繰越分 431,654)
委員会費	200,000	
利子	74	
計	1,031,928	

支出	
送料2回	89,120
封筒・紙等	17,163
電話代	34,391
会場費6回	30,000
計	170,674

次年度繰越金 861,254

以上ご報告いたします
平成19年3月31日

議案(七)平成十九年度予算案説明、秋山会計担当。

議案(八)理事會よりの報告、星野選考委員長。二月二十四日、第一回、二名欠席、仕事内容を承けたまわる。三月六日、第二回目、川上会長、玄野、山本副会長の再任を要請、監事二人は新任の福田俊光師、佐伯隆義師、以上の五名を推薦することを協議し承認した。議案(九)次期会長並びに役員改選及び承認の件、以上の(六)(七)の件、拍手で承認した。

議案(十)川上敬吾新会長、就任挨拶、新役員紹介、各役員に任命状交付手渡す。

議案(十一)仏跡参拝旅行の件、六月十八日に秩父三十四観音札所四万部寺、廣見寺参拝、参加人数の確認。

議案(十二)横浜市釈尊奉讃會の件について、玄野孝善師。秋の仏

跡参拝提示。決定したらご協力下さい。志村会長の時、ベトナム難民救済の為作った。布教活動として利用、当初は大勢の会員を集めた。しかし高齢化で参拝旅行等が出るに出来ない。参加人数はバス一台がやっと。本当少なくなつた。市仏連がテコ入れをして会員増強を図る。もう解散したらとの声も聞かぬが、とんでもない。何とかいい方法で立て直し、楽しく仏教を理解する為の大切な奉讃會を復活できるように智恵と支援をお願いします。

議案(十三)その他。能登大地震義援金を送る事決定。以上、市川南・港南区仏会長の名義長のもとに当局提出の諸議案が慎重審議され、無事に總會を円成することができた。閉会の言葉を山本信行副会長が述べて第三十四回總會を終了した。

横浜市仏教連合会 平成19年度歳入歳出予算書

歳入金 2,312,858円
歳出金 2,312,858円
総括表 差引額 0円
(自平成19年4月1日 至平成20年3月31日)

Table with 4 columns: 科目, 予算額, 前年度予算額, 差引増減. Rows include 1.会費収入, 2.雑収入, 3.過年度収入金, 4.前年度繰越金, and 合計.

横浜市仏教連合会 平成18年度収支計算書

収入金 2,274,755円
支出金 1,719,897円
総括表 差引額 554,858円
(自平成18年4月1日 至平成19年3月31日)

Table with 4 columns: 科目, 予算額, 決算額, 差引増減. Rows include 1.会費収入, 2.雑収入, 3.過年度収入金, 4.前年度繰越金, and 合計.

Table with 4 columns: 科目, 予算額, 前年度予算額, 差引増減. Rows include 1.総務費, 2.需要費, 3.事業費, 4.助成金負担金, 5.雑支出, 6.予備費, and 合計.

平成19年5月16日

上記のとおり歳入歳出の予算案を提出致します。

横浜市仏教連合会 会長 川上 敬

会計 柳下 賢明

会計 秋山 智謙

Table with 4 columns: 科目, 予算額, 決算額, 差引増減. Rows include 1.総務費, 2.需要費, 3.事業費, 4.助成金負担, 5.雑支出, 6.予備費, and 合計.

次年度繰越金 554,858円

平成19年5月10日

上記のとおり収支計算書を提出致します。

横浜市仏教連合会 会長 川上 敬

会計 柳下 賢明

会計 秋山 智謙

監査の結果相違ないことを認めます。

監査 丸地 良信

監査 森岡 隆伸

第四十回

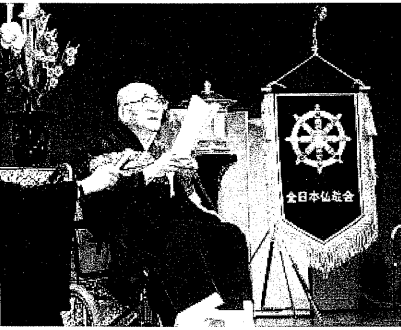
全日本仏教徒会議

神奈川大会開催

十一月十九日、二十日に、第四十回全日本仏教徒会議神奈川大会がパシフィコ横浜を会場に行われた。この大会は、二、三年前に一度行われる大会で、日本の仏教界の一大イベントと言える。この度、神奈川県が当番として行われた。

初日は、僧侶が集まって、現在仏教寺院が果たすべき役割・問題点についてパネルディスカッションを行った。二日目は、チベットのダライラマ法王をお招きして講演をいただいた。

会場には、現在の全日本仏教会の会長でもあり、本大会総裁の曹洞宗管長大本山総持寺貫主大道仙祝下が、両日とも出席され、ご挨拶いただいた。



第一日目

基調講演は、駒沢大学前総長奈良康明先生による「草の根的対話の提唱」という内容でお話し頂いた。論旨は、「仏教の社会観は『縁起の社会観』とも言え、個と全体との関係は、単なる個の集合体が全体なのではなく、個同士の間わり合いの総体が全体である。関わり合いを助ける力ギとなるのが慈悲であり共感、共生である。この具体的な実践が草の根的対話である」というもの。

続いて行われた分科会は四つに分かれて行われた。

第一分科会は「アジアの平和と仏教徒の役割」と題し、副題として「日本仏教青年の可能性を求めて」というテーマで行われた。

提言者 坂本観泰

座長 上田紀行

パネラー ギャナ・ラタナ・テーラ、クンチョック・シタル、本多静芳の各師

第二分科会は、「少子高齢化社会と寺院のあり方」であった。

提言者 中島隆信

座長 志村碧涯

パネラー 平野仁司、藤原成一、上川陽子各氏

第三分科会は「現代社会における仏教葬儀のあり方」で、副題として、「本来の機能を失いつつある現代の仏教葬儀」というテーマで行い、当市仏連の時局対策委員会による市仏ネットの取組を紹介しながら話し合いが行われた。



ける仏教葬儀のあり方」で、副題として、「本来の機能を失いつつある現代の仏教葬儀」というテーマで行い、当市仏連の時局対策委員会による市仏ネットの取組を紹介しながら話し合いが行われた。

提言者 佐藤功岳

座長 川上敬吾

パネラー 三浦公正、小谷みどり、芝崎成光の各師

第四分科会は「生命倫理と仏教徒に問われること」、副題を「一人の一生が始まる瞬間と死ぬ瞬間はどの時点だろうか」として、意見が交わされた。

提言者 田中雅博

座長 三宅守常

パネラー 柴田寛彦、佐藤雅彦、中野東禪の各師

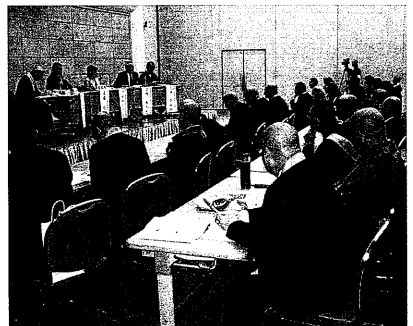
第三分科会の詳細

提言者の佐藤功岳師（市仏連時局対策委員長、日蓮宗大円寺住職）は、「本来、祈りの場であるべき葬儀が、営利目的の葬儀社主導となり、僧侶が利便さのあまりに間違った方向に甘んじてしまっている」と、日頃より訴えかけている論を述べ、市仏ネット立ち上げの経緯を紹介するとともに、寺院が

リーダーシップを発揮し、僧侶・仏教界が、社会に向けて正しい葬儀のあり方について発信する必要性を提言された。

一方、パネリストの小谷みどり氏は、第一生命経済研究所に勤務し、生活設計論を専門として現代葬送問題に詳しい。が、氏の分析によれば、僧侶の仏教伝統儀礼の意識と、一般の葬儀ニーズとの間にズレがあり、寺の存続も危うく、檀家制度そのものの見直しも必要と語る。問題は、僧侶と葬儀社のレベルの業界内の問題ではなく、社会全体が何を求めているかを多角的に考えて見直す必要性があると強調された。

また、県内の葬儀社を運営する傍ら、全日本葬祭業組合の理事を務める芝崎成光氏は、現代的な諸事情から、古来の葬送文化の威厳や価値観が失われてしまったことを嘆かれた。そして、僧侶が葬儀の意味や大切な説法を行ってほしいと懇願された。それだけ、



話をされない僧侶が多いことを強調された。僧侶不要、葬儀無用の風潮に対して、葬儀社と僧侶が話し合いの場を持つ必要があることを提案された。

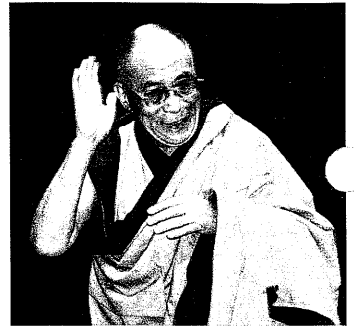
さらに、三浦公正師（当市仏連時局対策委員、時宗浄光寺住職）は、利便性に流れる葬儀が形骸化していることに危機感を持ち、宗教の持つ心性を取り戻すべきことを強調された。信者で無いにキリスト教会で結婚式を行うことに、批判する資格はないはず、なぜならば、信心が無くファッションで仏式の葬儀を行うことに甘んじている僧侶も同罪だからと指摘する。座長の川上敬吾師（市仏連会長、臨済宗松蔭寺住職）は、まともとして、宗教意識の低下した現代において、葬儀社の助力は借りながらも遺族の心を癒し、安心を与える主役は僧侶である、そのような危機感と問題意識を持つて対応すべきであることを強調された。他の分科会においても、有意義な会であったとの報告があった。



この日のために、全国から、宗派・年齢を超えて多くの僧侶が集まり、明日の日本仏教のために熱く語る姿があり、危機感を感じる同士の熱心な議論が展開された。

第二日目

二日目は、記念式典とダライマ講演。とにかく、今、世界的に注目を浴びているノーベル平和賞受賞者のダライマ師のために大変な警備で当日五千人余の聴衆の持ち物検査、ボディチェックが入り口で行われた。空港並だ。会場に現れたダライマ師は、とにかく、気さくでユーモアがあつて一気に親しみがわいてくる。会場に入場するときから、あちらこちらに目を配り、全体というよりは、特定の一人ひとりに指を指し、手を振り、合掌して挨拶された。華厳経の「二即多、多即一」の教理のように、正にそれを実践されて



いるように感じた。五千人の中の一人に、真剣に挨拶をする。それが他のすべての人に伝わる。多の中の一を大切にすることは、多を大切にすることにつながる。そんなことを実践されているように思えた。

講演は、椅子に座禅をして、通訳を介して、まとまりごとにおよそ二時間、「信ずる心と平和」と題して行われた。はじめはチベット語で、会場に英語のできる人が多かつたことから、途中からはかなり堪能な英語で話された。講演中は、照明のライトが気になるということで、アメリカの友人にいただいたというサンバイザーを着けられ、茶目つ気ぶりも披露。

通訳を介しての内容で強く痛感したことは、仏教という宗教を、いかに現代生活に生かすかという配慮であった。

とかく日本における仏教は、寺院環境・葬儀・墓参・供養といった具体化した慣習からイメージして捉えてしまうが、信仰、哲学、あるいは科学といったように、仏教が身近な生活に役立つような側

面から説いていることが印象的であった。

訳文抜粋

「科学者は物質の情報を提供し、仏教は精神的な情報を提供する。この両論が相互に働くことにより健康がもたらされるのです。」

「近代科学はたくさん重要な情報を提供してくれているが、精神的な心のメカニズムや身体と感情との関係については、仏教が長い歴史の中で、はるかにたくさん情報を提供してきているのです。信じる信じないに関わらず、仏教は、私達の生き方に役立つものなのです。」

「たとえばこの会場には約五千人が居りますが、肉体面、精神面では全く同じ人間であります。私たちは同じ人間であり同じ可能性を秘めています。サンスクリット教典の中では、命あるもの全てに仏性が備わっているという考えがあり、縁起の考えがあります。私たちが



ち一人ひとり相互関連を持ち、この世に存在しているというものです。この考えは仏教独自のものといえます。」

「仏教徒であるならば仏教に基づいた教えを実践していただくさい。主に修業者であるならば、慈悲の心に基づく菩提心を育むこと、哲学的見解としての縁起を理解し実践をすること、の二つを大切にしたいただくことをお願いいたします。」

というように、仏教の説く、縁起・無常、慈悲・智慧の思想を自分の哲学・宗教として生かすべきことを熱く語られた。

終わってからのエピソード

来賓予定の県知事、中田横浜市長、そして数日前までに極秘裏で出席が予定されていた小泉前総理が、ダライマ警護の関係で、急遽取りやめになったとか。とにかくスケールの大きな大会でした。関係の皆様、お疲れ様でした。

大会会長御挨拶

この度、第四十回全日本仏教徒会議神奈川県大会が、お礼しも開港百五十年祭を迎える横浜の地で開催する運びとなり、今大会総裁として、まず、ご参加いただきました皆様へ感謝申し上げる次第であります。

全日本仏教徒会議は、昭和二十八年八月の第一回より、当初各宗派の二本山を会場とし開催され、その後、第八回よりは、全日本仏教会に加盟を頂いております各都道府県仏教会が主体となられ、爾来五十有余年の永きにわたり、関係各位のご尽力により執り行われてまいりました。

今回、「地域の縁、アジアの縁―共生をめざして―」を大会の主題とし、また、特に記念として、ダライ・ラマ14世法王より「信ずる心と平和」と題して、講演をいただく良縁にも恵まれており、一人でも多くの仏教徒が、世界の平和と共生について自らの問題として深く考える契機となり、共に力を合わせて具体的実践へと展開されていくものと確信いたしますのであります。

今後も引き続き、全日本仏教徒会議の益々の発展のために、皆様のご協力をお願いいたします。

平成十九年十二月二十日

財団法人全日本仏教会

会長 大道 晃 仙

第二十四回春の仏跡参拝旅行

秩父霊場参拝

横浜市仏教連合会・釈尊奉讃会の春の仏跡参拝旅行は、六月十八日に、秩父霊場の各寺を訪ねて行われた。

梅雨時らしい曇り空の中、朝七時に天理ビル前に集合。顔見知りの毎回参加されるお仲間、久しぶりにお会いする方、初めて参加されるお友達……。この会ならではの和やかな雰囲気の中、玄野市仏連副会長の挨拶を皮切りに、バスは首都高を抜け緑濃き関越道へと順調に進み、八時半には高坂P・Aで休憩し、花園I・Cを降りて一路秩父へ。

はじめの参詣寺院は、秩父一番札所「誦経山四萬部寺（しまふじ）。山門をくぐると、入母屋造りの美しい観音堂をはじめ、いくつもの古い建物が重なり合い、いかにも



観音霊場らしい雰囲気を感じさせ、巡拝の参詣者で賑わっていた。一同、本堂で般若心経を唱え、巡拝の発願とする。

「ありがたや ひとまきならぬ 法の花 数は四万部の 寺のいにしえ」

と、御詠歌に詠われるこの寺は、奈良時代に行基菩薩の縁により創建され、法華経四万部を書写して地中に納めたことが寺名のいわれとされている。また、八角形の輪蔵の施食殿では、毎年八月二十四日に大施餓鬼会が行われることでも有名だそうである。

続いて、秩父の多くの寺院を末寺に持つ拠点の寺、曹洞宗廣見寺を訪れた。誦経の後、川上市仏連会長、美濃口奉讃会副会長の挨拶に続き、ご住職の町田廣文師にお話をいただいた。その中で、良寛

様が心の師と仰いだ大而宗龍禪師についてご紹介いただいた。宗龍禪師は、江戸時代中頃、当時の住職らとともに河原の平たい石に大般若経石書写の結願を立て、数千枚の石経を有縁の縁者によって石室に納める百日修行が行われたそうである。この石室は、現在、埼玉県の史跡に指定されている。

このように秩父は、三十四観音霊場をはじめ、多くの信仰の文化を形成してきたと言える。市内どこからも眺められる石灰岩の宝庫である武甲山は、痛々しい山容を見せているが、多くの建築資材に貢献してきた地であるという事実以上に、深い信仰の文化が集積された故郷であることを実感する。

廣見寺では、同行の市仏連寺院住職のご友人で十九番龍石寺のご住職を全員にいただき感激した。



最後の挨拶で山本市仏連副会長は、「今まで培ってこられた信仰を、益々深めていただければ幸いです」と締めくくられ、今回も総り多き仏跡参拝旅行となった。

参加寺院 松蔭寺、長昌寺、長王寺、長光寺、東泉寺、西福寺、妙光寺、東照寺。

秩父三十四観音札所

- | | | | | | |
|------|---------|-------|-------|---------|-------|
| 第一番 | 誦経山四萬部寺 | 曹洞宗 | 第十八番 | 白道山神門寺 | 曹洞宗 |
| 第二番 | 大棚山真福寺 | 曹洞宗 | 第十九番 | 飛瀧山龍石寺 | 曹洞宗 |
| 第三番 | 岩本山常泉寺 | 曹洞宗 | 第二十番 | 法王山岩之上堂 | 臨濟南派 |
| 第四番 | 高谷山金昌寺 | 曹洞宗 | 第二十一番 | 要光山観音寺 | 真言豊山派 |
| 第五番 | 小川山長興寺 | 臨濟南派 | 第二十二番 | 華台山童子堂 | 真言豊山派 |
| 第六番 | 向陽山ト雲寺 | 曹洞宗 | 第二十三番 | 松風山音楽寺 | 臨濟南派 |
| 第七番 | 青若山法長寺 | 曹洞宗 | 第二十四番 | 光智山法泉寺 | 臨濟南派 |
| 第八番 | 清泰山西善寺 | 臨濟南派 | 第二十五番 | 岩谷山久昌寺 | 曹洞宗 |
| 第九番 | 明星山明智寺 | 臨濟南派 | 第二十六番 | 萬松山円遊寺 | 臨濟建派 |
| 第十番 | 万松山大慈寺 | 曹洞宗 | 第二十七番 | 龍河山大洞寺 | 曹洞宗 |
| 第十一番 | 南石山常樂寺 | 曹洞宗 | 第二十八番 | 石龍山橋立堂 | 曹洞宗 |
| 第十二番 | 仏道山野坂寺 | 臨濟南派 | 第二十九番 | 笹戸山長泉院 | 曹洞宗 |
| 第十三番 | 旗下山慈眼寺 | 曹洞宗 | 第三十番 | 瑞竜山法雲寺 | 臨濟建派 |
| 第十四番 | 長岳山今宮坊 | 臨濟南派 | 第三十一番 | 鷲窟山観音院 | 曹洞宗 |
| 第十五番 | 母果山少林寺 | 臨濟建派 | 第三十二番 | 般若山法性寺 | 曹洞宗 |
| 第十六番 | 無量山西光寺 | 真言豊山派 | 第三十三番 | 延命山菊水寺 | 曹洞宗 |
| 第十七番 | 実正山定林寺 | 曹洞宗 | 第三十四番 | 日沢山水潜寺 | 曹洞宗 |

事務日誌

- | | |
|---------|-------------|
| 19.5.11 | 役員会(東照寺) |
| 19.5.16 | 第34回総会(西有寺) |
| 19.5.27 | 奉讃会総会(東照寺) |
| 19.6.5 | 慰霊堂出仕南港南区 |
| 19.6.18 | 第24回春参拝(秩父) |
| 19.6.18 | 会報原稿依頼状況発送 |
-
- | | |
|----------|-------------|
| 19.9.9 | 役員会(勸行寺) |
| 19.9.12 | 全日仏参加協力発送 |
| 19.10.5 | 慰霊堂出仕神奈川区 |
| 19.10.10 | 奉讃会だより発送 |
| 19.10.26 | 会報編集会議(東泉寺) |
| 19.11.19 | 全日本仏教徒会議 |
| 19.11.20 | 神奈川大会 |



葬儀の形骸化が指摘され、無宗教での葬儀が増加する傾向の日本。旧来の種家制度も、葬儀・仏事に多くを依存してきただけに、寺の存続維持に影響することは必須だ。

過日行われた全日本仏教徒会議の第三分科会のパネリスト三浦公正師は、僧侶が葬儀の意味を布教せず、ファクションとしての宗教不在の仏式葬儀を是認してきたことを指摘して、利便性に流されるままがために、最も大切な宗教の心性を失いつつあると警鐘された。

一方で、とりあえずは仏式の葬儀、墓地納骨、追善供養というパターンの利用率も高く、全国にコンビニの二倍の数があるという寺院空間が地域に貢献できる可能性も高い。深い仏教哲理の殿堂としての価値はもとより、緑自然環境といった癒しの場として、又、堂宇境内という空間としての資源価値は高いはずである。

そこで、この紙面では、「仏教が社会に求められていること」と題して、寺院、仏教にまつわる動きの情報のいくつかを紹介しします。

「世界仏教」への期待

上田 紀行

仏教は「期待される宗教」である。私はスタンフォード大学の仏教学研究所に在籍し、仏教に対する高い期待に驚かされると共に、「世界仏教」と「日本仏教」の温度差を痛感し、変革の必要性を感じた。

仏教が注目される第一点は、ア

メリカ国民の多くの仏教の寛容の精神、平和主義に強い期待を抱いていること。第二点は、個人の苦悩に向かい合い、一人ひとりの生きる意味を深化させるといふ仏教像があるということ。特にしがらみとしての教会型の宗教から、個人が自由に自己探求を行える宗教としての仏教に注目している。

こうしたアメリカの期待とは、逆の構図が日本仏教には存在し、日本においても、個人の苦悩に向かい合う仏教への転換が求められているのではないか。つまり、「イエ」の儀式のみに立脚する仏教の限界は明らかである。

特集

(話材紹介)

今、仏教が社会に求められていること

雰囲気は、日本とは全く異なり、日本の修行道場のような軍隊型組織は皆無であるし、女性指導者も多い。日本に女性僧侶が少ないことが不思議という指摘を受ける。

そして、何よりも日本との大きな違いは、アメリカの仏教者たちが、仏教を、弱肉強食の物質主義的な社会における、スピリチュアリティー（霊性・精神性）の復権という、高いレベルの世界的運動の中に位置づけていることだ。仏教はまさに個人を救済し世界を救済する、大きな時代的な責務を負っているものとして認識されているのである。

(読売新聞論壇H18・5・31)

「社会とかかわる仏教」に可能性

岡野 正純

国際仏教交流センターの岡野正純氏（孝道教団）は、「日本伝統仏教におけるエンゲージドブディズムの可能性を探る」と題して発表した。「社会参加仏教」「社会をつくる仏教」などと和訳される

代表的な人物や運動として、ベトナムのティック・ナット・ハン、インドのアンベードカル、スリランカのサルボダヤ運動、チベットのダライラマ十四世、タイのブツダーサ比丘などを列挙した。

エンゲージドブディズムは、「近代化の中で生まれてきた新しい仏教の形」であり、多くの活動は、「新しい面もあるが、基本的には釈尊から始まる伝統を継続するもの」と位置づけた。その特徴として次の四点をあげた。

- ① 平和主義
- ② カリスマ的リーダー
- ③ 社会活動・政治活動
- ④ 中道

では、日本はどうか。岡野氏は、自覚問題や青少年問題、ジェンダー貧困・平和・環境・国際支援などに可能性があるとし、実際にいくつか取り組んでいる事例を紹介。日本のエンゲージドブディズム

について、ただ単に社会問題にかかわるだけでなく、仏教思想によって社会のあり方に方向性を与えるという意味で「社会とかかわる仏教」という表現が適切」だとした。（浄土真宗懇話会、週刊仏教タイムス）

仏教テレフォン相談分析

仏教情報センター事務局

開設23年を迎えた仏教情報センターでは最近一年間（平成17年度）の電話相談の分析を発表した。

相談総件数四、四六五件のうち最も多かったのが「人生相談」に関する内容で一、一五〇件。特にうつ病など病、人生に関すること、家族親族に関する悩み、金銭トラブルなどと相談の範囲も広い。そして、この内容の相談者は常連となる傾向が強く、リピーターが多いのだそうだ。

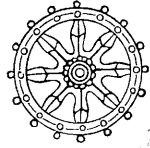
二番目に多い相談が、葬儀・供養に関する内容。三番目が納骨・墓地・墓石に関する相談、四番目が仏教の常識やマナーに関する内容。そして、仏教の教義や信仰の意味についての相談は五番目となっている。

開設当初から比べると、電話相談窓口は、公共機関のものや民間のもので急増し、しかも、専門に分かれて細分化する傾向にある。相談者が相談したいことを専門家が答えられるのだから便利になった訳である。が、仏教情報センターに寄せられる相談は、

意外と仏教の専門的内容よりも人生相談の一般的な悩みが多い。その方々の多くは、「どこでも話をじっくりと聞いてくれない」、「そういう複合的な悩みは仏教情報センターで聞いてもらい」と紹介されるという。現在、仏教情報センターでは、月々金までの昼間に各宗派が曜日ごとに担当して、二台の電話に延べ百人ほどの現職僧侶が相談に当たっている。医療や経済、訴訟の問題などの相談に対して、専門外であることを告げると、「そういうところは既に問い合わせているが納得のいく話は聞けない、僧侶の方に是非とも聞いてほしいんだ」という返答があるという。

相談所の数が増えなくても、受け止めてもらえない人や、その相談所のカテゴリーに当てはまらない方もいる。特に人生の悩みはそう単純なものではないのだ。仏教テレフォン相談は、そういった網の目から漏れた方々への救いの場所にもなっていることが統計から垣間見える。（仏教情報センター機関誌「仏教ライブ」18・9・20号）

件	%
A 人生相談	1,150 25.8
B 信仰の意味、教義、仏教文化や学問	454 10.2
C 葬儀、法要、供養、永代供養	599 13.4
D 戒名、法名	153 3.4
E 寺院・僧侶・既成教団の在り方や運営	383 8.6
F 仏教の年間行事、特殊法要	153 3.4
G 家庭での祀り方やお勤め	277 6.2
H 仏教の常識やマナー	449 10.1
I 祈禱	33 0.7
J 占い、迷信、霊感療法など	162 3.6
K お骨・埋葬・墓地・墓石	551 12.4
L ペット・針・人形などの供養	29 0.6
M その他時事問題や仏教以外の行事など	72 1.6
	4,465



区仏だより

金沢区

新年度を迎え、任期満了に伴う役員改選が行われ次のとおり決定しました。(任期は二年間です。)

- 会長 志村碧窟(金龍院)
- 副会長 友繁照純(正法院)
- 會計 六浦弓丸(長生寺)
- 事務局長 小西孝裕(金蔵院)
- 各行事主任
- 降誕会 豊田裕爾(宝樹院)
- 文化講演会 菊地茂雄(禅林寺)
- 交通安全祈願会 鹿野融弘(三宝寺)
- 機関紙発行 佐伯隆道(宝珠院)
- 寺務研究会 丸山石栽(泥牛庵)
- 古寺参拝会 須方審證(光明院)

平成十九年度に既に実施された事業及び今後予定されている行事は次のとおりです。

- 定例総会
- 五月二十三日(水) 金龍禅院
- 第五十七回 仏教文化講演会
- 八月二十六日(日) 金沢公会堂
- 講演「あなたも人生の料理人」
- 成田市長寿院 篠原鋭一師
- 実演「ハワイの伝統文化」
- フラ・ハラウエイ渡辺さん
- 第四十六回交通安全祈願会
- 十月二十七日(土) 葉王寺(寺前町)
- 寺務研究会
- 十一月二十六日(月) 会場未定

港北区

私共港北仏教会では、四月七日毎年恒例のはなまつりを菊名・妙蓮寺にて開催しました。当日は好天に恵まれ、皆様のご協力により、会場が満席となる約120名ものお客様が参られ、本年は、妙光結社、瀬野泰光上人による大変たゆみになる法話を頂き、又、本年も例年通り、お忙しい中、落語家・柳家喬太郎師匠にもお越し頂き、御高座を賜り、ご来場者の皆様にも楽しいひと時をお過ごし頂きました。

又、六月二十日には、恒例の、研修会を開催致しました。本年は、阿部陽一様の御取計らいで、神奈川県民部学事振興課から、お二人の講師をお招きして、「寺院規則について」というテーマで、ご講演を頂き、質疑応答では、出席者との熱心な質疑が繰り広げられました。



来る、十一月の全日本仏教徒会議神奈川大会につきましても、会

栄区

今年の一月十七日、例年のように「大震災救援」托鉢募金を行っている所へ、一人の女性から「中越へも届きますか」と尋ねられた。馬鹿正直に、阪神神戸へ送ります、と答えると、残念そうにして立ち去っていった。

栄区仏では、年二回の托鉢活動しかできないが、地震国日本の現実、各地に発生しており、被災地の人々は心細い思いで救援の手を待っている。報道される姿には胸を痛めているが、今は個人個人で対応するしかないのが、残念である。

各地で起きた災害が報じられると、すぐに街頭募金に立つ若者達を目にする。彼等を疑うわけではないが、不信任をぬぐいきれない。それに引き替え、我々仏教僧が、会名を明示して身分を正し、世間の人々の心に響く鐘をならすことは、慈悲行そのものである。栄区仏の活動は未熟なものであるが、今後の道として、社会の動向に機敏な行動をとれるようにしていきたいものであると、話し合いを深めている。



― 泉慰霊堂出仕当番表 ―

平成20年 4月	磯子区
平成20年 6月	港北区
平成20年 10月	金沢区
平成20年 11月	中区

編集後記

◎総会で横浜市が習得した元横浜ドリムランド跡地の市営メモリアルグリーン霊園の情報について関心が高かった。塔婆、線香もあげられない。芝生墓地、壁型合葬墓地はロッカ形式で約一万五千器収容能力があり、現在五〇〇器が使用され、七年後まで毎年募集するそうだ。樹木葬は三種類の木が植林され林となっている区画に、骨壺から出さずに埋葬する。これでは本当の樹木葬といえるのだろうか。樹木葬を未来型として最理想ともてはやす評論家に聞きたい。

◎七月十六日(月)午前十時十三分頃、新潟県上中越沖を震源とする震度六強の大地震が発生した。新潟中越沖地震の深さは十七キロ、マグニチュードは6.8と推定される。柏崎市が震源に近いせいもあり、大きな被害にあつた。寺院も多く被災した。本当にお気の毒で心よきお見舞いを申し上げ、早期の復興を祈念申し上げるのみである。八月は大変な猛暑で九月十七日には東北地域は豪雨に見舞われ、大災害となつた。地球はどうなつたのでしょうか。我々、人間が環境破壊の大元凶なのだが、各国の欲望の思惑があつて、京都議定書が

実施されないでいる。◎九月二十四日にミャンマー国で僧侶を中心にした反政府の大規模なストがあり、軍事政権が弾圧し僧院を急襲し五〇〇人の僧侶を拘束する非常事態事件が起きた。現場で取材していた日本人カメラマン永井氏が至近距離から銃でうたれ死亡した。仏教徒として胸が大きく痛む思いで報道を注視している。犠牲者に合掌黙祷を捧げた。

◎日本生命倫理学会が「死生の文化と生命倫理」と題してシンポジウムを開催した。生命倫理と宗教文化の関係を問う内容で、問われる「医療は煩惱か」、科学の「欲望」を制御できるか。「欲望」とは、期せずして宗教者によるワーカーショップのキーワードでもあつた。懐疑論もある中で、宗教は「欲望」のコントロールのために何らかの問いかけができるのかどうか。問われているのは宗教の底力だ、という新聞記事に注目した。ウツ病 自殺者が増大し、いとも簡単に殺人が起こされている。世間と自己の深い洞察が仏教のはじまりであり究極であろう。俗語、真諦、自利利他 四無量心、四摂法の実践 少欲知足に仏教者は立脚すべきであろう。お布施を差しあげるのではなく、お経料を取られるというようにしたのは、とりも直さず寺側の態度であろう。猛省し、恥ずべきだ。

おほらかに もろての ゆびを ひらかせて おほき ほとけは あまたらしたり(会津八二)